

【高・2年次・体育・陸上競技（ターボジャブ）】①

育成を目指す資質・能力

岐阜県立岐阜高等学校／柘植 由衣

自己の学習状況を把握し、学習の進め方等について主体的に学習に取り組む態度を養う。

ICT活用のポイント

- ①ICT端末を効果的に活用することで、自己の学習状況を把握するとともに、深い学びの充実を図った。
- ②授業後にMicrosoft Formsを活用し学び直し等の充実を図った。

事例の概要

導入：示範となる動作の提示及び共有
動作イメージの明確化及び定着

展開：動画確認、指導及び助言を基に実践

まとめ：技能ポイントを整理するとともに、
自分の考えをまとめる

【導入】

示範となる動作映像を視聴すると同時に、動作のポイント等を説明・共有し、イメージの明確化及び定着を図った。【タブレット活用】

【展開】

ICT端末を効果的に活用することで、自己の動きと示範の動きの差に気づき、改善する方法等を主体的に考えるよう働きかけた。【タブレット活用】

【まとめ】

Microsoft Formsを活用し、授業の振り返り及び学び直しの充実を図った。
【Microsoft Forms活用】

【高・2, 3年次・体育・陸上競技(2年次)バレーボール(3年次) (評価を可視化する必要があるか)】②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



〈検証方法〉

○評価等について

ICTを効果的に活用し評価規準を可視化した領域と、ICTを活用せず評価規準を口頭で示した領域について検証した。

①領域名：バレーボール 年次：3年次

※ICTを活用し評価規準を可視化した。

→課題を提示して評価するポイントを理解させた。(PowerPoint活用)

②領域名：陸上競技 年次：2年次

※評価規準については口頭のみで説明した。

※示範動作を動画で確認・共有し、タブレットで動作分析した。

→自己の運動技能と示範の運動技能の差を比較するために、示範動画及び自己の動作を視聴させた。

〈検証結果〉

○評価規準がわからないと回答した生徒は、① 2%② 0%と差がなかった。本校の生徒は、学力が高く理解力にたけているため、口頭説明のみでも問題なく理解できたと考える。今後ICTを活用するにあたって、身体を動かすことの苦手な生徒や、身体を動かす意欲の低い生徒に対してICTを効果的に活用できる方法に努めたい。

〈留意点等〉

○自己の学習到達状況を知るために、以前はプリントを活用していたが、今回はFormsで回答させた。プリントを書かせる・集める等の時間が省かれ、生徒情報等を管理することは容易であったが、回答率が低かったため、回答率の向上については次年度の課題にしたい。

【PowerPoint・Microsoft Forms】